

2023年度
予算案

西小倉小中一貫校整備費、給食センター事業費など 市民の意見も聞かず強引に推進 議会に報告もなく・「開発協力金」を廃止



来年度の予算を審議する予算委員会が3月6日～20日までの間、開催されています。市民の声を聞かない強引な市政運営に批判の声も多数、寄せられています。

(仮) 西小倉地域小中一貫校整備事業

■市教育委員会は、2026年の開校をめざして西小倉中学校の敷地に、3小（西小倉・北小倉・南小倉）と西小倉中学校を統廃合する小中一貫校計画を推進しています。校舎整備に約70億円、グランド整備に約10億円、総額約80億円です。

約1000人の児童生徒が通学します。保護者・地域住民は「体育の授業はどうなる?」「低学年の子が遊べる場所はある?」「校門は狭くない?安全は?」「給食はどうなる?」など多くの質問を市教委に提出し説明を求めています。しかし市教委は、保護者にも周辺住民にも十分な説明もしないで予算を計上しています。

また、開校後、校舎解体に半年、グランド整備に1年程かかり、今の小5・6年生、中学生はグランドが使えません。体育の授業や放課後の部活動など、どうするのか、

給食センター整備事業

■市教委は、西小倉地域の小中一貫校の開校に合わせ、26年実施を目標に、給食センターの建設を急いでいます。給食センターでは、中学校だけでなく、自校方式の小学校給食もセンターの調理・配食する計画です。

市教委は、センターの設計・建設を一括で行うDB方式で行うとして、DB事業者に全て委託する予算が計上。

市教委が責任をもつ食育やアレルギー対応、異年齢による献立など、基本的な計画は明かにしないまま、事業

議会に報告もなく開発協力金を廃止

■市は、住宅開発に伴う下水道や道路整備等の社会資本整備の財源を、開発事業者からの「開発協力金」を活用してきました。戸建て住宅を6戸以上整備する場合、1区画40万円の「開発協力金」を求めています。

例えば、分譲住宅を10戸開発する場合、40万円×5戸=200万円です。

一方、開発事業者からは負担になると廃止を求める要

(仮) 西小倉地域小中一貫校整備事業費

総額 約80億円

2023年度 13億1652万8千円

実施設計委託料 2億658万円

近隣家屋事前調査 102万円

電波障害調査 564千円

校舎建築工事(23年度分) 1億7200万円

工事車両進入路仮設橋建設工事 3500万円など

何も説明がありません。

学校は地域コミュニティの要です。地域住民の交流の場であり防災の拠点です。50年・100年先まで誇れる学校になるよう、保護者・地域住民の不安や疑問の声にしっかりと応えていくべきです。急いで計画をすすめるべきではありません。

給食センター整備事業費

総額 36億円

23年度～27年度

給食センター整備支援業務委託料 2183万5千円

DB事業検討委員会委員報償費 126万円

DB事業設計委託料(23年度分) 2千万円

用地取得費 5億2800万円

費だけ計上し、全て事業者任せですすすめようとしています。

望がだされ、自民党は「住宅等販売価格に上乘せさせられており、人口流入施策に逆行している」と廃止を求めてきました。

2001年度には約5億円の「開発協力金」がありましたが、昨年度は約6900万円に減少。来年度は歳入未計上になっています。議会にも全く報告せず、重要な施策を廃止しようとしています。

日本共産党
宇治市会議員団

2023年3月12日 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所内

Tel: 0774 - 22 - 3141 (内線2817) Fax: 0774 - 24 - 7884

議員団へのご
意見はこちら

